

「持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会」 議論の概要の公表について

次のとおり、富士北麓地域において開催しました。

- ・ 6月11日から7月9日までの7日間で計14回開催。
- ・ 延べ54名の方に参加いただきました。

富士山登山鉄道構想や、富士北麓地域の未来の在り方について、多様な視点から幅広い御意見や想いを聞かせていただきました。心から感謝申し上げます。

県では、富士山における新交通システムとして、富士山登山鉄道構想を一つの選択肢として提案しているところですが、皆様が示してくださった御意見を踏まえ、議論を深化させることが重要であると考えております。

そのため、御意見の概要とともに、県の考え方を併記し、公表させていただきます。

もとより「鉄道ありき」で進めるつもりはありません。引き続き検討を重ねて参ります。

現在も個別要望に基づいて意見交換会を開催しているところであり、御意見を踏まえて方向性を固めていきたいと考えております。

今後とも活発な議論に参加してくださるようお願い申し上げます。

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
新交通システム		
登山鉄道構想		
検討プロセス	ボトムアップで民主主義的に丁寧な議論によって対策を検討すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県政の重要課題を検討・議論をするに当たっては、まずは検討のたたき台が必要であり、登山鉄道構想を一つの選択肢として提案しているところです。登山鉄道構想以外にも有効、かつ具体的な解決策があれば、提案を歓迎いたします。 ・ 今回の意見交換会の実施を通して、議論を積み重ねることが極めて大切であると改めて認識しました。皆様が率直な意見を示してくださったこと、県の問題意識を理解しようと努めてくださったことに感謝を申し上げます。 ・ 「鉄道ありき」で進めるつもりは毛頭ありません。今回参加された皆様からいただいた意見を踏まえ、現在の技術水準や先行事例に照らし、引き続き様々な選択肢を幅広く視野に入れて検討を行って参ります。
	複雑な課題であるため、まず始めに全ての条件を洗い出すことが必要。	
	県の検討過程・考え方を分かりやすく示すべき。	
	「鉄道ありき」ではないか。LRTは最後の手段であり、他の選択肢を検討すべき。	
	LRT以外に選択肢がないかのような説明であり、都合の良いことばかり言っているように思う。	
	将来世代に何を残せるかという視点で考えることが大切。	
	県が住民の意見を聞くようになったのは良いこと。	
	この意見交換会で出された意見を県は受け止めてほしい。説明したから進めるというのではなく、最善の策を考えてほしい。	
	鉄道より先に採用できるソフト対策から取り組むべき。	
ソフト対策を検討することに予算を使うべき。自治体は住民が議論する場を設けることが大切。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富士山の課題を解決するソフト対策は登山鉄道構想と併せて検討すべきものと考えています。県では旧登山道をはじめ、富士講や御師文化など多彩で魅力ある富士登山の発信に取り組むこととしています。 ・ その他のソフト対策についても積極的に皆様と議論しながら進めていきたいと思えます。 	

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
新交通システム		
登山鉄道構想		
イコモスからの課題の捉え方	来訪者コントロールが必要との認識は賛成できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・①来訪者コントロールや②環境負荷の軽減、③景観を信仰の場にふさわしいものとするといった世界遺産登録時にイコモス（国際記念物遺跡会議）から指摘された3つの課題は早急に解決しなければいけないと考えています。
	来訪者コントロールや環境保護が必要なことは理解できるが、その対策が鉄道というのは飛躍していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・五合目への来訪者数は、世界遺産登録前の2012年の231万人からコロナ前の2019年には506万人と約2.2倍にも増えました。
	来訪者コントロールには、インバウンドツアーを抑制するしかない。国が法律を作って規制すればよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・マイカー規制を拡大しても規制対象外のバスによって多くの来訪者が訪れています。 ・富士スバルラインではマイカー規制によってバスの渋滞は発生しておらず、バス規制日を設け観光バス、マイクロバスの通行規制をしている上高地のようなバスの規制はできません。増え続ける来訪者による混雑が原因で来訪者の満足度も下がっています。
	オーバーツーリズムは問題ではない。来訪者はもっと来てもよい。昔から多いし、経済効果がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・また、五合目には電気と上下水道が敷かれていないことから、発電機を動かすための重油や水を麓から運ぶタンクローリー車による大量の排気ガスが排出されています。
	世界遺産であるため、多くの人々が来訪できるのがよい。ターゲティングも不要で、ごちゃまぜの良さがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、来訪者コントロールができていないことで、来訪者が放置する大量のゴミ、処理が追いつかないトイレの問題など環境へ過大な負荷を与えることにつながっています。
	来訪者コントロールと景観改善は別物であり、区別して考えるべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・加えて、現在の五合目はマイカーやバスのために用意したアスファルトの駐車場などの人工的景観が目立ち、神社が売店によって見えにくいなど、景観が信仰の場所にふさわしくない状況です。
	景観がふさわしくないとしているが、疑問。	<ul style="list-style-type: none"> ・これらにより観光客の満足度が下がることは、観光客が来ても地元にお金が落ちない「ゼロドルツーリズム」の構造的要因であるとも言え、麓全体への経済波及効果が少なくなっています。
	五合目売店における重油の使用が問題なのであれば、触媒を用いてCO2排出量を減らせるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・登山鉄道構想はこれらの現状の課題解決にとどまらず、100年先を見据え、富士山を唯一無二の上質な空間としていくための一つの具体的な提案としてお示ししています。これまでも他の選択肢について調査・研究を続けており、今後も続けていきます。
	パンフレットの「瀬戸際の富士山」は危機を煽りすぎ。	<ul style="list-style-type: none"> ・なお、オーバーツーリズムは全国の観光地で問題となっています。本県では今シーズンから登山者の規制を実施し、イコモスからの課題の一部を解消できると考えていますが、五合目までの来訪者コントロールは依然、大きな課題として残っています。

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
新交通システム		
登山鉄道構想		
開発	開発のイメージが強い。	<ul style="list-style-type: none"> ・登山鉄道構想は既存のスバルライン上に軌道を敷くものであり、架線レスの給電方式など最新の技術により景観への影響を最小限とするため、大規模な開発を行うものではありません。 ・むしろ、富士山における昭和のモータリゼーションの象徴的な開発ともいえるスバルラインを自然回帰にリデザインするものだと考えています。
	昔のハコモノ行政と同じであり、強引である。	
	人工物を作るのは、時代に逆行している。今後の技術発展により、別の手段が生まれる。	
	五合目の駅舎の建造について、堅い岩盤があり、地質の観点から懸念がある。	
	外国人の満足のために作ってほしくない。富士山を遊園地化しないでほしい。	
安全性	雪崩の発生を踏まえると、冬季営業は不可能。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の満足度向上のために検討しているわけではありません。 ・富士山や地域社会の持続的発展のため、観光客を資金面での協力者・パートナーと捉え、これまでとは異なる発想で新たな観光の仕組みを作ることができるものと考えています。
	土砂崩れや雪崩が起きたら、復旧に時間や労力、経費がかかることが問題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のスバルラインの営業と同様に安全を第一とする考え方をしています。冬季において何が何でも運行する考えではありません。気象や路面、積雪などの状況を踏まえて安全が確認できる範囲内で営業することを想定しています。
	火山であることを忘れるべきでない。	<ul style="list-style-type: none"> ・LRTのレールは地表から出ていないことから道路上及びレール溝内の除雪で足り、レールのゆがみ補正までは要しないとされており、復旧のための時間などは抑えられると考えます。
	シェルター建造は鉄道と切り離して対応できる。結びつけなくてよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害への対応は鉄道であってもバスであっても必要となります。 ・また、活火山であっても経済と安全対策を両立することは火山国である日本では各地で多く行われています。 ・県では登下山道のシェルター建造に向けて対策に着手しています。 ・五合目までは道路上の洞門に加え駅舎にシェルター機能を併設する予定で、建造費を乗車賃など運行収益でまかなう仕組みを検討しています。

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
新交通システム		
その他の交通		
	<p>鉄道はサステナブルではない。持続可能な観光地にする上でふさわしくない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山における新交通システムは、まずは来訪者コントロールを可能とする交通システムであることが大前提となります。
	<p>反対派の対案としてEVバスが提案されているが、その根拠も十分に示されておらず、何がよいのか分からない。雪崩を考えるとバスも無理。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き皆様と議論するとともに、様々な選択肢を幅広く視野に入れて調査・研究していきます。
	<p>(EVバス以外がスバルラインを通行できないような) 特区の申請をしてはどうか。現行法では採用できない通行規制の方法を検討すべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山における来訪者コントロールを可能とする交通システムの検討に当たっては、まずは現行法に基づきそれを可能とする手段を検討することが法治国家として当然のことと考えております。ご提案の特区制度は規制を撤廃等するものであり、新たな規制を行うようなことにはなじまないと承知しております。 ・なお、EVバスには、富士スバルラインでは来訪者コントロールができないことのほか、現状では解決できない様々な課題が残されています。 ・まず、1台あたりの輸送量が少なく運行オペレーションに課題があります。 ・また、イコモスから人工的景観と指摘された五合目駐車場を残す必要があり、景観上の課題も解決できません。 ・さらに、2021年時点のバス登録台数24万台のうちEVバスは149台にすぎず普及していません。 ・現在のEVバスの航続距離の短さを考えると、遠方のEV観光バスが直接五合目に乗り入れることができず、運行主体が地元の事業者に限定される懸念があり、公平・公正の観点からも問題があります。
	<p>スバルラインを含む県道707号を一度廃止し、スバルライン部分を除いて再度新設することで、スバルラインを廃止すればよい(スバルラインを廃止して、来訪者をコントロールすればよいのではないか)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・究極の解決策はスバルラインの廃止だというのは、ご指摘の通りかもしれませんが。 ・しかしながら、スバルラインによって支えられている地域経済が現にあるため、道路廃止という形ではなく、来訪者数を適切にコントロールできる道路としていく必要があると考えています。 ・また、スバルラインを道路でなくすことにより、国からの支援を受けられなくなるため、維持管理に要する多大な費用を県が負担することとなり、現実的ではないと考えます。

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
地域振興		
観光		
	麓から五合目までだけでなく、富士北麓地域の二次交通の充実を図るべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に山中湖や鳴沢村方面への二次交通が不足しているため、河口湖周辺などに外国人観光客が滞留し、局所的にオーバーツーリズムが生じていることが課題となっています。 ・国道138号及び139号に沿い東西を結ぶ基幹的な路線として二次交通を整備することは、地域づくりにおいて極めて有効なものであると考えています。
	LRTが延伸され地域の特産品を駅で販売できれば、人口減少が激しい地域における住民の収入確保策になり、人口流出防止の効果がある。	<ul style="list-style-type: none"> ①観光地間をつなぐ交通手段が確保されることにより、観光消費額が増加する。 ②観光客が訪れていない新たな観光スポットを掘り起こす。 ③駅のネーミングにより地域のアイデンティティを喚起する。
	今のままではいけない。富士山のポテンシャルに見合う、経済的なメリットを地元が享受できているとは思えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・登山鉄道構想は、新交通システムを核とした富士北麓地域の持続可能な地域づくりを射程に入れており、より良い経済循環を産み出すことができるような取り組みを考慮するなど構想を磨き上げていきたいと考えています。
	様々な施設について、地元で収益が回る形で運営するべき。	
	富士山のビューポイントの整備やその情報発信が重要。それにより周遊する仕組みづくりが重要。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビューポイントの整備は市町村や事業者との連携による工夫が必要と考えています。魅力的なビューポイントの周知により周遊につながればよいと考えています。
	世界遺産の地域にある施設として、「泊まる」以上の機能を提供できる施設であることが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設によっては、連泊する滞在型観光客の個別の事情に応じ、地域の文化的側面を学ぶための案内などをされていると伺っており、このような取り組みが広がればよいと考えています。
	登山鉄道はレトロなデザインにより、地域や景観になじむものがよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新交通システムの導入においては、地域や景観になじみ、住民の共感を得られるようなものになるようにします。例として、デザインを公募により決定する方法も考えられます。
	車の進入禁止エリアを設けるゾーニングにより、歩く観光を振興するのがよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングも一つのアイデアです。仮に歩行エリアを設定する場合は、前提として、そのエリアの入口までの二次交通が整備されていることが有効であると考えます。

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
地域振興		
観光		
	静岡県と連携して周遊観光を促すべき。	・山梨・静岡両県の連携は非常に重要であると考えています。今後とも観光や産業などにおいて連携して取り組んで参ります。
	学校を誘致できれば夢がある。	・富士北麓地域に観光を学ぶ学校があれば、観光とは別の形で人の集まりが生まれ地域が活性化します。それだけでなく、当該地域の観光に関する研究が進むとともに、その実践の場として観光業の発展が図られるものと考えます。
	国中地域と富士北麓地域の両地域の人々が協力し、マッチングによりビジネスチャンスを広げてほしい。	・魅力的な観点であり、このような取り組みが進むと様々な可能性が広がると考えています。県では新交通システムで富士北麓地域とリニア駅を結ぶことも視野に入れていきます。
	タバコを捨てる外国人観光客が多いため、マナーを見直してほしい。	・マナーの改善は重要な課題であると認識しています。地元自治体と連携してしっかりと啓発していく必要があると考えています。
	ゴミその他により地域を汚す人には来てほしくない。	
富士山		
保全	富士山の自然を守るべきであり、法律で強力な規制をするべき。	・自然保護は国際的に共有される重要事項です。 ・登山鉄道構想においても、オーバーツーリズムやそれに伴う環境負荷の軽減を図ることを目的としております。 ・スバルラインについては既に存在しているため、富士山への負荷を軽減する形にリデザインすることが肝要であると考えています。
	自然があつての観光地であるため、自然を保護すべき。	
	スバルラインをつくったことがそもそもの間違い。御神体を傷つけている。	
	富士山は悲鳴をあげている。人が来すぎており、ルールやマナーの違反、ゴミ捨て、トイレでの閉じこもり、軽装など、本来の在り方から外れている。	・こうした課題を解決するためにも来訪者のコントロールが必要です。登山鉄道構想は、スバルラインでの来訪者コントロールを可能にし、富士山における様々な課題を解決する有効な手段であると考えています。
	富士山のトイレが問題であれば、補助金でバイオトイレを増やせばよい。	
	気温の低さなど自然条件により、バイオトイレは機能していない。	
	持続可能性の観点から対策をとることが重要。	
旧登山道の浸透枘など、昔からの知恵を元に持続可能な対応をすることが理想であり、富士山に対するリスペクトである。	・古来から引き継がれているものを絶やすことなく、現代でも活用していくことは持続可能性の観点から大切な視点であると考えます。	

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
地域振興		
富士山		
保全	地元の人でも地域の歴史を知っていないことが問題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・富士北麓地域は富士山を中心とした独自の文化が根付いている地域であると認識しており、今回の意見交換会においてご意見を伺うことで、さらにその認識を強くしました。 ・本年度策定するグランドデザイン（※）においても、その要素に配慮していきます。 ※富士北麓に人や企業が集まり、観光を核とした産業や、文化・芸術などの新たな価値が絶えず創造され続ける仕組みである「富士山観光エコシステム」のビジョン
	路線バスは五合目に向かう前に世界遺産センターに寄るルートにすべき。来訪者はセンターで学んでから登るのが適当。	
	御師の建物が減っている。保存することが大切。条例の規制により建物や街並みの景観を保存すべき。	
	富士北麓地域の住民にとって、この地域の地図は南北が逆で富士山が上、真ん中は富士みち。そのような独自の文化を伝えていくべき。	
	信仰の対象としての富士山の再興を図るべき。	
	富士山が信仰の山であることが知られていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・信仰目的の登山を含め、伝統的な登山の仕方など、多様な登山の在り方があってしかるべきです。 ・県では旧登山道や巡礼路の調査を進めることとしています。調査結果に基づき、地元市町村や恩賜林組合と連携し、古の登山道再興を図るとともに、それらを活用した地域振興にもつなげていきたいと考えています。
	信仰登山という在り方がもっと広がってもよい。	
	信仰と絡めた形にし、神社に入山料を払う仕組みになればよい。	
	旧登山道を下から登ることが本当に重要なことである。昔からの誇れる形の登山のリバイバルである。	
	旧登山道はよいところである。ただし、トイレがないことが問題。	
	現在は五合目で山頂に向かって手を合わせる人を見ることがない。登ることは特別なことであってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の意見交換会において、住民の皆様と富士山の日常的な関わりについて、機微に触れる点も含めて伺うことができました。 ・富士山が「信仰の対象と芸術の源泉」として普遍的価値を認められていることから、信仰の要素に対して敬意が払われることが大切です。また、富士山世界遺産センターの情報発信力を強化していくことも必要です。 ・昨今では巡礼ツーリズムの人气が高まっています。一定数の観光客は出身地の文化的背景からも信仰の要素に関心をもつと考えられ、その土地に敬意を払うことを求めるような観光地側の姿勢も重要になってくると思われまます。
	富士山信仰は通常の宗教と異なる。朝に一礼する、敬意を払って登る、いい日にしようとするなど、日常的・精神的なものである。	
	外国の方々にも地域の信仰や歴史を理解してほしい。	
	現代に今さら信仰と主張するものではない。信仰にこだわらない方がよい。	
	富士山信仰のエッセンス（六根清浄など）やマナーを伝えるべき。シャトルバス内で啓発ビデオを流すとよい。	

持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会 議論の概要

分類	意見の概要	県の回答・考え方
地域振興		
富士山		
保全	人の多さが問題ではなく、弾丸登山が問題である。	・弾丸登山を防止する観点から、本年度登山規制を開始したところですが。ルールやマナーの徹底については、更なる対策を検討していきます。
	ルールを設けるなどのソフト対策が必要（ガイドをつけることや、ツアーバス車内で説明を受けることを条件とするなど）。	
	富士山の問題は富士山庁を作り、国が対応すべき。複数県にまたがるエリアであるため国が対応すべき。	・ご指摘のとおり、国の積極的な対応が求められます。山梨県としては、国をはじめ静岡県や関係団体と緊密に連携しながら対策を講じていきます。
	世界遺産登録の維持を大前提にするのは誤りである。抹消された方がよいかもしれない面がある。	・イコモスからの課題を解決できるか否か、地元の管理能力が問われていると認識しています。世界遺産登録の抹消が現実のものとなれば、地域経済へのダメージは計り知れません。
活用	富士山だけでなく構成資産をもっと活用すべき。それらに光が当たっていない。	・イコモスの勧告書において、浅間神社などの構成資産は相互に関連のあるものとして、全体として意味を伝えることが重要であると指摘されています。各構成資産に光を当て、観光客が触れ理解できるような観光地にすべく、ランドデザインにおいても配慮します。
	イコモスの指摘にあるとおり、構成資産相互の関連を説明することが必要。	
	スペイン北部の巡礼路のように、歩くことが大事。	
	山岳文化をアピールすることが可能。	
	ヒルクライムレースを開催できなくなることが問題。自然破壊を起こさない範囲での経済振興が重要。	・ヒルクライムレースは地域の大きなイベントとして定着しており、新交通システムと両立する形で実施できるかを検討していきます。
	富士山からこれ以上どれだけの恩恵を受けよう（稼ごう）というのか。もらい過ぎではないか。	・富士山への環境負荷等を減らしつつ、富士山という唯一無二の資源を活用し、地域振興を図ることが重要だと考えています。